

1 + 1 が 3 になる社会

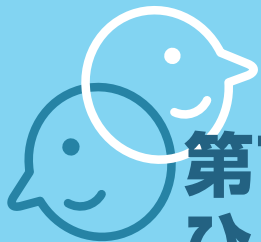
敵 だね!

# コラボレーション

協働

..... c o l l a b o r a t i o n .....

- P.2 特集1  
第7回ひょうごボランティア・スクエア21開催
- 特集2  
知事を囲む「さわやかトーク」開催
- P.5 紹介します!ボラセンの取り組み  
「高砂市ボランティアセンター」
- P.6 クローズアップ!助成団体  
「特定非営利活動法人 環境21の会」
- P.7 広がれ! ボランティアネットワーク  
「自治会とショッピングセンターのいい関係」
- P.8 広がれ! V-NET
- P.9 連載 NPOワンポイントアドバイス  
「NPOのマネジメント」  
やってみよう☆情報発信～コラボネット～  
「困ったときのQ&A パート2」
- P.10 プラザ通信  
「平成19年度ひょうごボランティア  
基金助成制度の紹介」etc.



## 第7回 ひょうごボランティア・スクエア21開催

1月28日(日)に姫路市で開催された、第7回ひょうごボランティア・スクエア21の様子をご報告します。

# 第7回ひょうごボランティア・スクエア21開催

阪神・淡路大震災から12年。震災は大きな爪あとを残したと同時に、私たちに助け合いの気持ちや自発的に社会や地域に目を向け、行動を起こそうという気持ちを芽生えさせました。そしてその力は地域を支える活動となり、全県・全国に広がっています。ひょうごボランティア・スクエア21はこのような震災を契機に広がったボランティア・市民活動を応援し続け、今年で7回目を迎えました。

今回は、平成19年1月28日(日)に姫路市で開催しました。初めての被災地外の開催となりますが、地元の姫路市をはじめ、社会福祉協議会や青年会議所、NPOなどとの連携のもと、子どもから大人まで幅広い参加者層で約4千名と多くの人出でにぎわい、幕を閉じました。

今号の特集では、そのボランティア・スクエア21の内容をご紹介します。

## ボランティア・市民活動 元気アップアワード

このアワードは、ボランティア・市民活動団体と、それらを応援しようという皆さんを結び取り組みです。今回は50件の応募があり、そのうち元気アップコース4団体、こっこつコース11団体が受賞しました。このアワードの目玉は大きな夢を実現するための資金として贈られる元気アップ大賞の100万円。また、実績評価型のこっこつコースでは、イベントの参加者が各団体の発表を見て、応援したい団体へ投票できます。



元気アップ大賞の「神戸フリースクール」の発表では、ギター演奏も飛び出しました。

スでは、イベントの参加者が各団体の発表を見て、応援したい団体へ投票できます。こうしたアワードの

趣旨に賛同いただいた企業等が協賛金を提供し、誰もがボランティア活動を



こっこつ大賞の「サークルさえずり」は音訳図書作成などをしており、音訳の必要性をうたえました。

を応援できる仕組みづくりを通して、寄付の文化の醸成をめざしています。

元気アップアワード協賛企業・団体(敬称略)	
株式会社	兵庫福祉保険サービス
財団法人	木口ひょうご地域振興財団
新光証券株式会社	
三井住友海上火災保険株式会社	
近畿労働金庫	
生活協同組合	コープこうべ
株式会社	六甲商会
大阪ガス株式会社	兵庫リビング営業部
関西電力株式会社	
財団法人	コープともしびボランティア振興財団
特定非営利活動法人	しみん基金・KOBÉ
第25回全国菓子大博覧会・兵庫	兵庫県実行委員会
連合兵庫(日本労働組合総連合会兵庫県連合会)	
兵庫県経営者協会	
兵庫県労働者福祉協議会	
大阪ガス労働組合兵庫ブロック	
有限会社	オノエクリーニング
株式会社	熊田造園
神戸燐寸株式会社	
ごとう歯科医院	
坂上建設株式会社	
船場印刷株式会社	
株式会社	ソネック
兵庫リコー株式会社	
前田建設株式会社	
松田鋼管株式会社	
株式会社	モリシタ・アット・リフォーム
大和薬品株式会社	
株式会社	サエキスタジオ
播備株式会社	

ボランティア・市民活動元気アップアワード受賞団体	
元気アップ大賞	神戸フリースクール
元気アップ賞	関西学院上ヶ原ハビタット
	(特)たかとりコミュニティセンター (特)ひょうごセルフヘルプ支援センター
こっこつ大賞	サークルさえずり
	(特)淡路島ファミリーサポートセンター まあるく
こっこつ賞	かめのごグループ
	子育てひろば「おひさま文庫」
	竹の台地域情報局
	チャリティショップ くるりん
	西宮カウンセリング研究会
	パソボラaiaiai
	(特)はらっぱ
	(特)ひだまりの家
	姫路福祉マップをつくる会

## ひょうごボランティア・市民活動フォーラム

「コミュニティの再生」はみんなの力で

今年のテーマは「コミュニティの再生」。コミュニティの再生を進め、暮しやすい地域、元気な地域をつくるにはどうすればいいのか、基調講演やパネルディスカッションを通して皆さんと考えました。

### 《基調講演》

基調講演では、ローカル・ガバナンス研究所（奈良市）の木原勝彬所長が「コミュニティ再生と自治の仕組みづくり」と題して講演されました。

都市計画道路の拡幅計画に対する奈良町の街並み保存の取り組みに関わられた経験から、単に行政案に反対する



木原勝彬氏（ローカル・ガバナンス研究所長）の基調講演

のではなく、住民と共に調査研究し、自ら助成金を得て説得力のある提案を行うなど

の取り組み事例をお話いただきました。

この経験やその後の研究から、「地域の住民が主権者・主体者として自治体の運営、行政・議会運営ができるような流れが必要である。一方、住民にも、地域に帰って地域の課題として、自らの問題として取り組む姿勢が求められる」と指摘されました。また、地域の豊かな人材をつなぐ人が必要であり、これを育成するなどの人材養成システムを提案いただきました。

### 《グループディスカッション》

木原氏の基調講演を踏まえて、参加者によるグループディスカッションが、「子育て支援」「シニアの地域参加」「高齢者の支えあい」「まちづくり」の4つのテーマ（10グループ）に分かれて行われました。

それぞれのテーマの活動における課題と地域コミュニティとの関連、コミュニティで解決できることやできないことは何か、将来どのようなコミュニティが望ましいか、コミュニティ再生のためには何が必要かなど、熱心な話し合いが行われました。

まとめとして、コミュニティ再生に向けて大切だと思われるものを、グループごとにキーワードで表現してもらいました。〈お手軽・お気軽に、子どものふれあい・つながりの場を継続的に提供できること〉（子育て）、〈きっかけと楽しみ〉（シニア）、〈高齢者の社会的価値の創出〉（高齢者）、〈NPOと地域が新しい活動の場づくりを〉（まちづくり）など27のキーワードが出されました。

### 《パネルディスカッション》

グループ討議で出された参加者からの意見に基づき、ボランティア活動者の立場とそれを支援する立場でパネル討議を行いました。

討議を通じて、「住民一人一人もっている力を地域に役立てる場や仕組みをつくること」や「地域組織、NPO、企業などの様々な主体が相互にネットワークをつくること」という、コミュニティ再生のための取り組みポイントがみえてきました。また、そのために「活動のきっかけと楽しみを提供すること」や「ネッ

トワークを築く人材を地域で見出すこと」、「民主的で開かれた組織の運営を心掛け、専門家とタイアップすることが重要」という具体的な提起がなされました。

さらに、そうした取り組みを支援する「中間支援組織に対する支援」や「資金創出の仕組みづくり」など、コミュニティ再生のための基盤整備が行政の役割として挙げられました。

地域組織、NPO、中間支援組織、企業、行政などのさまざまな主体が、知恵と力を寄せてつながることの意義と、そのために私たちに求められることを確認した有意義なパネル討議となりました。



パネルディスカッションの様子 左から、コーディネーター：野崎 隆一氏

（ひょうご市民活動協議会〈HYOGON〉）

パネリスト：木原 勝彬氏（ローカル・ガバナンス研究所）

小林 美代子氏（姫路市社会福祉協議会）

中山 栄一郎氏

（歴史と出会うまちづくり船場城西の会）

山口 一史氏（ひょうご・まち・くらし研究所）

長谷川 俊氏

（連合兵庫〔日本労働組合総連合会兵庫県連合会〕）

## 《ふれあいマーケット》

ふれあいマーケットでは、姫路市内の小規模作業所等が、日頃の活動で作している作品・製品などを販売しました。今年は、手づくり小物やクッキーなどの販売コーナーの他、料理を提供するコーナーと飲食スペースを設けました。名物の姫路おでんや家島の海鮮物を加工した特産品など、地域色あふれる品物もあり、たいへん盛況でした。



姫路おでんは一番に売り切れました。

## 《地域活動パネル展・地域づくり活動情報紹介コーナー》

パネル展は、県内の様々な地域活動をパネルで展示するもので、県内の57団体が自ら取組んでいる活動を1月20日～2月1日にかけてアピールしました。また、情報コーナーでは、ボランティア相談やNPO法人設立相談を実施しました。

## 《その他、ボランティアプラザの主催事業》

### ・企業・NPO協働奨励事業表彰・事例発表

受賞の2団体とその協働の相手方の4企業に対し、表彰を行いました。受賞団体を代表して1団体に、受賞した協働事例を発表していただきました。

### ・ボランティア活動資源マッチングコーナー

このコーナーは、企業とNPOが有する資源を双方向でマッチングすることにより、協働を推進することを目的に実施しました。当日は、主に姫路市内の企業から提供いただいた椅子等100点以上のモノを、パソコン画面を通じて来場者に案内し、7件のマッチングが成立しました。



マッチングコーナーの様子

## 特集

# 知事を囲む「さわやかトーク」開催

～県民ボランティア活動の推進に向けてNPOの果たす役割～

去る2月4日、知事が県内各地の実践活動グループを訪ねて意見を交換する「さわやかトーク」の特別版として、NPOを取り巻く現状や課題について自由な意見交換を行う「井戸知事とのさわやかトーク」をプラザで開催しました。

円卓形式の会議には、県内各地域、各

分野で活躍されている11のNPO団体の代表者が参加。黒田裕子さん(特)阪神高齢者・障害者支援ネットワーク)の司会で始まった会議は、冒頭、小森所長から、競争社会のひずみでセーフティネットにほころびが出ている中で、緊急の課題に対してNPOは何ができるのか議論をしていく必要があるとの提案がありました。

これを受けて、NPOと企業の協働、子育て支援への関わり、中間支援について、NPO側からの活動状況報告を交え、順次活発な意見交換を実施しました。

NPO側からは、1対1の協働から地域住民などを巻き込んだ多角的な協働を

進めていくことの提案や、子育て支援では地域に密着したワンストップの子育て情報ステーションづくりに向けての取り組み、また、中間支援ではNPO法人化することへの理解が浅い団体からの相談が増えているなどの実情についての発言がありました。

知事からは、行政ではできないサービスをNPO活動が担っていることへの認識、多角的な協働を進めるための潤滑的な役割へのNPOに対する期待、NPOからの相談を他の団体やシステムにうまくつないでいくことも1つの選択肢であるとのご指摘があり、最後に、公益法人改革では、県では国の動きに対して方向付けを提案していくようとしているので、提案をいただきたいとの発言で締めくくりました。



紹介します

ボラセンの取り組み

# 団塊の世代の意識調査を通して その支援を考える



2007年から「団塊の世代」が定年を迎えます。そんな中、定年後の地域での暮らしについて、関心が高まっています。今回は、調査活動を通して団塊の世代への支援を考える、高砂市社協ボランティアセンター（以下、高砂市VC）の取り組みを紹介します。

## 企業との協働関係

高砂市VCでは、高砂・加古川・播磨地域の企業連絡体「松蔭総務懇談会」（以下、懇談会）の会員企業22社と、企業のボランティア休暇や社会貢献について意見交換を行ってきました。平成11年頃からは、懇談会も「企業としてより地域とのつながりを深めたい」との思いから、社会貢献について考えていくための研修会を毎年開催してきました。

## 調査で実態を知る！

その中で高砂市VCでは、団塊の世代自身が定年後の生活についてどのように考えているのか知るため、平成17年度、団塊の世代を含む50歳代の勤労者を対象として、

『定年後のライフスタイルに関する意識調査』を実施しました。調査項目は大きく「定年後の就労について」「定年後の暮らしについて」「ボランティア活動について」「定年後のビジョン（構想）について」「記入者について」の5つに分けられます。

質問項目の選定や質問内容へのアドバイス、調査票回収などが懇談会の協力のもとで行われたこの調査は、1週間という短期間での実施にも関わらず、284人（64・5%）もの回答がありました。

## 調査から見えてきたもの

調査からは、回答者の約80%の人々がボランティア活動に関心があり、きっかけがあれば参加したいと回答しています。一方で、活動について相談できる場所であるVCの存在を知らない（51・8%）が半数を占めました。また、「定年後のビジョンを持っていないか」との質問に対して、持っていない（50・4%）・考えたことがない（15・8%）を合わせると、全体の3分の2の人が明確なビジョンを持っていないことが分かりました。

## きっかけづくりとしての講座の開催

この調査結果を受け、機会があればボランティア活動をしてみたい人向けに、平成18年度は「熟年ボランティア入門コース」を開催。対象を50歳以上とし、同年代のボランティア活動者から、活動を始めたきっかけや魅力などを聞く場を設け、参加者がよりボランティア活動に対するイメージを抱きやすくする工夫がされています。

中でも、「子育て」や「病院ボランティア」、「国際交流」など、6つの分野から選択できる体験活動も取り入れるなど、様々な分野の活動を紹介したプログラムが特徴です。豊富な体験活動を用意することで、これまで培ってきた経験や技術・特技を生かして、地域社会における活動の場の提供や、社会参加の促進に力を入れています。

## “？”から“！”へ

団塊の世代のボランティアへの参加は、企業人が地域社会の一員であるというこ

とを認識し、地域で役割を果たしていくための一つの選択肢です。このような意識調査などを通じて、団塊の世代の思いを汲み取り、どのような情報やサポートが求められているのかを知ることが、適切な支援を考える基礎となります。

高砂市VCでは、今回の調査結果を生かしながら、これからも懇談会と協働しつつ、講座や広報紙などを通じて、ボランティア活動についての情報を発信していきます。



熟年ボランティア入門コースの様子

## 高砂市ボランティアセンター

〒676-0021 高砂市高砂町朝日町1丁目2番1号 高砂市福祉保健センター内  
TEL (079) 442-4047 FAX (079) 443-0505  
URL <http://homepage3.nifty.com/takasagoshi-shakyo/borantia/borantia.html>

### 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

### 特定非営利活動法人 環境教育推進事業(実験を重視した子どもの環境教育)

### 環境21の会

このコーナーでは、プラザが展開する多彩な助成事業に採択された団体とその事業内容をご紹介します。

#### ○行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)のしくみ

この事業は、地域の課題解決や活性化に向け、行政との協働によって、より高い効果を生む事業の推進を目的とした事業です。1年目はNPOが多岐にわたる地域課題から特定のテーマを抽出し、解決に向けて客観的データを踏まえた企画提案書を作成します。2年目はその提案書を基に行政の協力を得て事業化計画書を作成し、3年目に行政と協働して事業実施という3段階になっています。今回は、3年目の事業実施の段階に入った「特定非営利活動法人環境21の会」理事長の塩野さんに、活動を紹介いただきます。

#### ○環境教育推進事業(実験を重視した子どもの環境教育)とは

環境教育は、理科(化学・物理・生物)をはじめ数学、地理、歴史、社会、国語などを含む総合的な教科であり、さらに道徳を子どもたちに教えるという今の世の中で不足している教育の要素が入っていることが特徴である。

当会は、小学校低学年から高齢者大学まで、いろんなライフステージに対して環境教育を実施してきた経験から、小学校高学年に注力するのが、最も大きな効果が期待できると考えてきた。

近年、総合的な学習の時間に環境を取上げている学校も増えたが、教員が不足している内容が伴っていない例も少なくない。環境に関する当会の情報や経験、独自の工夫で整備した実験器具を役立てられないかということ、本事業を提案

し、行政・NPO協働事業として平成16年度に採択された。

当会の環境教育は、実験を主にしているので、講義の時間は映像を使って出来るだけ短くしている。実験で子どもたちが番関心を示すのは、自然エネルギーの利用に関するものである。パラボラ型集光器で太陽光を集めてゆで卵を作ったり、太陽光発電で蒸しパンを作ったり、ケナフを蒸し焼きにして炭を作っている。また、炭でおこした火で餅を焼くなど、非日常的な実験が大うけに受けて、多くの子どもたちの感想文にそのことが書かれていた。

#### ○協働事業を実施することで得た効果

この事業を開始するまでは、当会の環境教育での実績や人脈を頼って、個々の小学校と接触して環境教育を実施してきたが、年間に環境教育が実施できる小学校の数は限られたものであった。

ところが、本事業に取り組む際の行政側の窓口として、教育委員会に何度も足を運ぶと、市町で教育委員会が子どもたちを対象とする文化的な講座を主催していることを知り、その中で環境についての講座を開設するという話がまとまり、本事業を実施するに至っている。

本事業を実施していくうちに、学校側に当会の行う環境教育を紹介してくれるケースや、マスクミ等を通じて取り組みを知った学校から要請が開始しており、本事業が広がってきているのを感じる。

#### ○助成終了後の課題

これまでの3年間を通じて、いくつかの市町教育委員会と協働事業が成立しているが、その中には金銭的なやり取りがほとんどなく、助成金とボランティア精神だけに頼っている。教育委員会主催の講座では、材料費を支給されたり、受講者から徴収したりしているケースがあるが、助成金を実験器具の開発や実験材料とその運搬費、交通費として使っているため、現状では人件費までまかなえる状態ではない。当会としては、事業継続のために環境教育の出来る講師陣の増強も進めてきたが、学校や教育委員会の経済的支援もあつてはじめて事業化が出来るものであり、行政との覚書の中で、予算措置が講じられることが協働事業の継続につながると考えている。



ペットボトルで風力発電の実験

特定非営利活動法人 環境21の会  
理事長 塩野 勝  
〒673-0862  
明石市松が丘3丁目8番5号  
TEL/FAX 078-914-8527  
URL <http://www.kankyo21.org/>

## みんなで参加し、みんなで楽しむ自治会

### 甲子園八番町自治会

西宮市甲子園八番町は、甲子園筋を挟んで甲子園球場の南東に位置し、戸建住宅、社宅、マンション、非居住店舗、中学校、図書館などいろいろな形態の建物が混在する、自治会員数約2800世帯6000人の町です。

#### ● 活気ある開かれた自治会

自治会が催す「春祭り」・小学生の入学、卒業を祝う会「お餅つき」などには、毎回100人を超す町民が参加し、子どももお年寄りも、昔から住む人も転動してきた人も、そして町外の人までも呼び込んで、楽しい時を過ごすごです。自治会は、子どもの育成に重点を置いています。「子どもを引張り出せば親が付いて来る、そこへシニアが加われば三世代の交流ができる」と考えているからです。

また、老人会を解散し、ボランティア活動への参加や相互扶助を目的としたシニアクラブを誕生させました。このシニアを中心とした自治会有志が「甲子園筋緑化ボランティアグループ」を結成し、甲子園筋沿いに美しい花壇を作っています。

#### ● 巨大ショッピングセンター（SC）建設

そんな町内の60%を占める広大な阪神パーク跡地に、SCが建設されることを知り、甲子園八番町を含む周辺地域の保護者たちは、SCが子どもたちに悪影響を与えるのではないかと心配しました。

そこで、自治会が地域の意見を取りまとめ、SCとの交渉に当たったのです。

保護者が心配するSC出入口や駐輪場の位置、SC内に開店予定のゲームセンターの内容

などについての話し合いは、百数十回におよびました。そんな努力を積み重ねて、平成16年11月に「ららぽーと甲子園」はオープンしました。

#### ● 広がる自治会活動

オープン後、毎月第2土曜の夜に行われるようになった自治会防犯パトロールには、30〜70歳代の10数名の中に必ずSCの社員も加わり、SC内を含む町内をパトロールしています。さまざまな経緯の中で連帯感が生まれ、SCも自治会の一員として当然の義務を果たしているのです。

自治会もSCと連携することで活動が広がりました。子どもの理科離れを食い止めたいとSC内のハンバーガー店で衛生管理の見学や製造実習の後、細菌検査の実験を行いました。今後は、SCの空き地を利用した植物の育成実験を計画しています。

はじめは懸念されたSCの存在が、自治会の仲間、そして小さな町の自治会活動の大きなサポーターとなり、これからもどんどん新しい試みを考えていく予定です。



子ども会 ハンバーガー店での実習

#### 甲子園八番町自治会 会長 永井 孝也

〒663-8178  
西宮市甲子園八番町3-16  
TEL/FAX 0798-47-5354  
E-mail hdg27302@hcc1.bai.ne.jp

## 自治会とショッピングセンターのいい関係

### ららぽーと甲子園

**Q** 地域における「ららぽーと甲子園」の運営方針は？

**A** まず、地域の方々に親しみを持っていただけるショッピングセンターでありたいと考えています。そのためには「モノ」を売るだけでなく、生活を豊かにするため色々な提案がなされ、さらには地域の「ミニミニ」機能の一部でも担えればと思っています。

**Q** 自治会とはどのような関係ですか？

**A** 地域にお住まいの方々とは、自治会が主催する様々な行事への参加や、自治会員としての活動を通じて交流を深めています。また、「ららぽーと甲子園」として地域の皆様に対し、多方面での支援が出来ればと考え、現在では、施設の一部を「西宮市指定避難所」として登録し、非常時に防火水槽の水を飲料水に変える「災害対策用造水機」を設置するなど防災活動への積極的な協力や、「ミニミニ」機能のサポートなど、自治会員としての役割を果たしています。

**Q** 今後、どのような連携を考えていますか？

**A** 毎月実施している防犯パトロールでは、コースの一部に「ららぽーと甲子園」館内の巡回も含まれており、お客様の視点でサービス面など改善のアイデアをいただくこともあり、当方が自治会に協力するだけではなく、「ららぽーと甲子園」が自治会から施設改善のヒントをいただくという形で、相互に補完しながらよりよい地域づくりを行っていければと考えています。

(取材：地域活動コーディネーター 高村 有子)

懐かしい映画で蘇る青春時代の回想  
サークル活動からコミュニティビジネスへ

(特)巡回映画サークル(神戸市)

ほの暗い空間、変化するスクリーンの映像、そこにはふしぎな空間が創造されます。カタカタと音をたてる映写機、昔懐かしい映画の思い出、胸躍らせたスターや心に残る作品が蘇ってきます。

場内が明るくなると、普段は口数が少ない高齢者が当時の思い出や俳優の魅力について、一緒に映画を見ていた若い人たちに向かってぽつりぽつりと語り出します。

活動の原点  
NPO法人の立ち上げ

学生時代、映画サークルを立ち上げた経験をもつ木下茂樹さんは、退職後、高齢者福祉施設などで巡回映画上映のボランティア活動を始めました。その活動の中で、若い頃に見た映画を再び見た後、昔を思い出しながら語りだす高齢者の変化に着目しました。高齢者の反応や家族の喜びを見て、フィルム映像による映画の持つ「力」に確信を深め、介護の仕事を通じて知り合った有志とともに平成13年2月、NPO法人巡回映画サークルを立ち上げました。

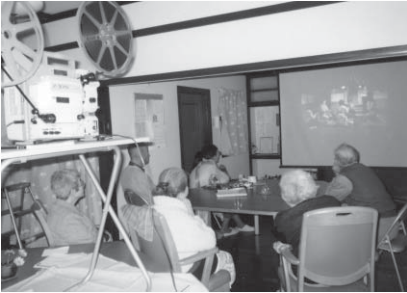
平成14、15年度には兵庫県  
のコミュニティビジネス離陸  
応援事業の助成を受け、福祉

施設や区民センターなどで毎月巡回映画会を開催してきました。

あったかデイサービス

「はるか」の開設

そうした中、高齢者地域ケアにたいする仲間の思いは熱く、当初計画したグループホームを途中で断念するなどの紆余曲折を経て、平成16年2月に巡回映画会を取り入れた高齢者ケア施設「あったかデイサービス「はるか」」の開設までこぎつけました。巡回映画サークルの活動からNPO法人の立ち上げ、さらに高齢者ケア施設の開設など、生きがいごとサポートセンター神戸東の支援も受けながら、コミュニティビジネスへと展開してきました。木下さんや仲間の人たちの「映画」と「高齢者福祉」にかける情熱を、「はるか」に集う高齢者の笑顔の中を感じる事ができます。



16ミリ映写機で映画を楽しむ高齢者

特定非営利活動法人 巡回映画サークル

代表 木下 茂樹  
〒651-0053  
神戸市中央区籠池通1-2-14  
TEL 078-242-2670  
FAX 078-242-2675

(取材) 地域活動コーディネーター 松本 竹生

広がれ! V-NET

商店街から地域の魅力を発信  
空き缶回収から広がるまちづくり

空き缶でもうけてもええ会(佐用町)

JR佐用駅前の佐用商店街の一角にあるエコステーション「缶★環☆館(カン・カン・カン)」。「ここは「空き缶でもうけてもええ会」が空き店舗を利用し、地域のリサイクル拠点として整備しました。空き缶を入れるとゲームがスタートし、当たらば商店街で使える商品割引などの「ラッキーチケット」が出てくる空き缶回収機のほか、冷暖房を完備しテレビや机を置いて、昼間は買い物客の休憩スペース、夕方は地元の高中生などが宿題をしたり、電車の待ち時間を過ごすなど地域の共有スペースとしても活用されています。

この会は商工業や地域の活性等で課題を感じていた若手商店主らが平成13年に設立しました。町内に大型スーパーやホームセンターが進出し、商店街の顧客離れが懸念される中、環境に配慮する消費者からは、スーパー等と比べ、商店街の資源回収への対応の遅れを指摘されましました。若手店主らは「商店街の良さとは何か?」と住民の声に耳を傾け、自らの存在価値を見直しました。商店街の振興とともに地域が元気になる活動を行うことを目的に、環境問題を切り口に商店街の活性化に取り組んでいる東京の早稲田商店会の事例に学び、エコステーション「缶★環☆館」の活動を始めました。

現在、商店街内の18の協賛店がラッキーチケットを提供しています。回収機は1ヶ月1,000個程度の空き缶を回収しており、管理に手間はかかるものの継続することが会への信頼につながると地道な活動を続けています。

会では「缶★環☆館」を通じて見えてきた地域の課題に着目し、多様な活動を展開しています。住民と共に行ったプロードバンド誘致、青少年の居場所づくり、ホルモン焼きうどんなどの地域おこしのための名物づくり等々です。その活動は若者に地域への愛着を深め、「次は自分がリーダーとしてやりたい」という声も挙がっています。現在、会はまだおこしの仕掛け人として近隣イベントへの協力や他団体からの活動相談も増えています。熱意と人脈と商人の智恵で活動する会は今後とも注目的です。



空き缶回収機

空き缶でもうけてもええ会

〒679-5301  
佐用郡佐用町佐用3018-6  
TEL 0790-82-2305  
FAX 0790-82-3321  
URL <http://www.kankankan.jp/>

(取材) 地域活動コーディネーター 鎌田 有子





## ●連載 NPOワンポイントアドバイス● One Point Advice 最終回

先日、あるNPOの研修に参加してBSC（バランス・スコアカード）と一緒に作成しました。そのNPOは、一泊研修において、参加者全員でミッションを検討・共有し、直面している環境状況（SWOT分析の機会と脅威）と保有する経営資源（強みと弱み）を分析し（日々の仕事の中で各自が気付いた点を事前にまとめていました）、それによって明らかにになった問題点を解決する方策を検討した上で、BSCを作成しました。短い研修時間の中で、全員でミッションを再確認・共有し、問題点を洗い出し、BSCの策定までこぎ着けたわけです。NPOにおけるマネジメント（経営・管理）という仕事は、ともすれば理事長や理事会がやればよいと思われがちです。確かに小さな会社なら、経営者一人が計画を考えて、従業員に実行をうながせばよいかもしれませんが。しかしNPOの場合は、常勤職員や非常勤、およびボランティアなどのように、多様な働き方で、しかも無給で活動をする人々もいます。NPOで仕事をする人たちは給与も重要ですが、活動の社会的な意義ややりがい、生きがいなどを重要視します。私は、このような多様なメンバーで構成されるNPOでは、全員参加型、現場参加型のマネジメントが望ましいのではないかと考えるようになりました。個々の組織が掲げた使命を実現し、メンバー個々人の自己実現を達成するために、現場で活動する皆さんも参加してマネジメント活動をしていこうではありませんか。そのためのツールとして、これまでに紹介したSWOT分析やBSCは有効な手法です。皆さんの組織も、これらの手法を活用して、環境に適応する組織作りを試みて下さい。

兵庫県立大学経営学部教授 當間 克雄

### やってみよう☆情報発信 コラボネット

## 困ったときの Q & A パート2

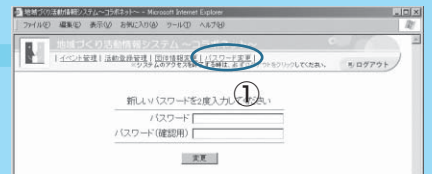


ひょうごボランティアプラザでは、子育てや高齢者の支援、緑化活動、交流行事などのボランティアな活動を、『地域づくり活動情報システム～コラボネット～』で発信しています。

今回も、前回に引き続き、コラボネットについて問い合わせの多い質問についてお答えします!!

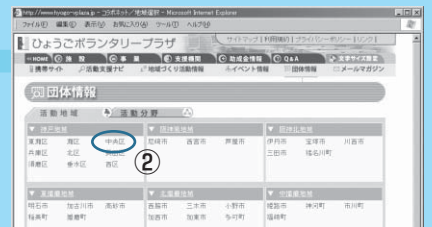
### Q コラボネットのパスワードがわかりにくい!

A パスワードは新規登録時にセキュリティ対策として自動設定しているため、[zm8y3fkk]のようにローマ字や数字が混在しています。これを分かりやすい文字に変更するには、ログインしてから右図①の「パスワード変更」をクリックし、新しいパスワードを入力して下さい。(英数字4～8文字)



### Q 希望する情報を検索してもなかなか見つからないのですが・・・

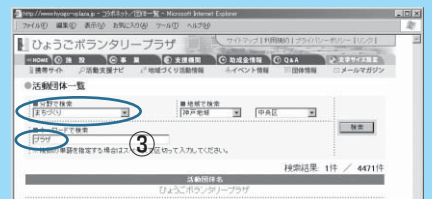
A 例えば「神戸市中央区でまちづくりの活動をしているひょうごボランティアプラザという団体」を探したい場合、まずは「団体情報」の「活動地域」で「中央区」をクリックします(右図②)。すると、中央区で活動している団体一覧が表示されます。次に「分野で検索」で「まちづくり」を選択します。「キーワードで検索」で「プラザ」と入力するとさらに絞り込むことができます(右図③)。



コラボネットだけではなくインターネット上での検索でもいえることですが、下記のごとくに注意して検索して下さい。

◆長いキーワードは「単語」に分けましょう(「ひょうごボランティアプラザ」は「ひょうご」と「ボランティア」と「プラザ」に分けてスペースを挟む)

◆なるべく固有名詞で、より特定できるキーワードを使いましょう



### 地域づくり活動情報システム(コラボネット)とは・・・

県内の「地域づくり活動」に関する情報を、インターネットを通じて広く発信し、情報の共有化、さらには団体相互の連携、交流のきっかけづくりを支援することを目的とした情報システムです。コラボネットを利用して情報発信を希望される方は、プラザホームページのトップ画面の「★新規登録はこちら」をクリックしてください。「団体に関する基本情報」の登録画面が出ますので、必要事項を入力してください。活動団体番号(ID)とパスワードを発行します。(TEL) 078-360-8845 (FAX) 078-360-8848 (コラボネット専用E-mail) info@hyogo-vplaza.jp

地域づくり活動情報システム  
コラボネット  
www.hyogo-vplaza.jp  
携帯サイト www.hyogo-vplaza.jp/mobile/

## 平成19年度 ひょうごボランティア基金助成制度のご紹介!

県民ボランティア活動の活発な展開を支援するため、ひょうごボランティア基金による助成事業を、次に掲げるコンセプトに基づき実施する予定です。

- (1) ボランティア団体の自律性・スキルの向上と裾野の拡大など質・量両面の確保を図る。
- (2) 中間支援活動助成メニューの充実を通して、ボランティア団体に対する効率的・効果的な支援を行う。

### 主な助成制度(予定)

区 分	目 的
県民ボランティア活動助成	福祉、まちづくり、文化・芸術、環境、地域安全、国際交流、子どもの健全育成等NPO法17分野のボランティア活動に助成し、団体の自立支援を促す。<上限3万円(1/2助成)>
ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成	地域のボランティア活動支援拠点とボランティアグループ・NPO法人等の連携・協働を支援し、地域課題の解決を図る。<1事業 30~90万円(10事業程度)>
学生ボランティア活動助成	学生を対象とした入門教室、体験・交流事業、ボランティアセンターの設立準備に係る経費を支援し、学生ボランティア活動の理解と参加の促進を図る。<上限10万円>
立ち上げ支援助成	NPO法人等の立ち上げを支援し、NPO活動の促進を図る。 ①インキュベート整備 ②公共スペース活用 ③事務所借り上げ <上限 各30万円(1/2助成)>
チャレンジ事業助成	地域課題の解決のための広域性の高い活動や斬新な活動の拡大、発展を図る。 ① 新規事業 上限100万円 ② 既存事業 上限50万円
NPOパワーアップ事業助成	NPOの活動基盤を強化する。 (①ITによる情報公開 ②定期機関紙の発行 ③普及啓発事業等 5項目)<1項目につき 5万円>
インターン助成	団体の基盤強化を目的とした海外及び国内の先進事例、現状の調査研究を支援する。 海外 上限30万円 国内 上限15万円 【現在募集中です!】(2月1日(木)~4月27日(金))
行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)	行政とNPOの協働推進のため、NPOの企画の事業化を支援する。 1年次(企画) 30万円 / 2年次(事業計画) 60万円 / 3年次(事業実施) 100万円
行政・NPO協働事業助成(行政提案型)	<一般型> 行政からの各種提案について、NPOとの協働により実施する。<1事業 30万円程度>
	<テーマ・対象特定型(3力年限定)> 団塊の世代を対象とした行政からの提案について、NPOとの協働により実施する。<1事業 上限50万円>
企業・NPO協働奨励事業	企業とNPOの協働を奨励する。<30~50万円(5件以内)>
中間支援活動助成	ネットワーク構築、調査研究、講座等の開催、相談事業等を行おうとする中間支援活動のレベルアップを図る。 <1団体 上限100万円>

※各助成制度について、詳細が決定次第、ひょうごボランティアプラザホームページ等でご案内します。

プラザ休館のお知らせ

5月3日(木)~5月6日(日)の間、  
プラザは全施設を休館とさせていただきます。